

中国・杭州

西湖名所めぐり



西湖攬勝

茅盾



中国杭州

西湖名所めぐり

外文出版社
浙江人民出版社

西湖名所めぐり

1982年 初版発行

編 者	浙江人民出版社
訳 者	林台、章輝夫、阮柔
出 版 者	浙江人民出版社 外 文 出 版 社 (北京阜成門外百万荘)
発 行 者	中国国際書店 (北京 P. O. Box 399)
印 刷 所	外文印刷工廠

番号: (日) 12050-61

12-J-1596P
00200

沁園春

西子湖邊保傲塔尖暮靄迷蒙
看雪峯夕照斜暉玄扈三潭
印月夜色方濃出海朝霞芬
堤春晚疊嶂層波染漸紅群
芳園又紫藤引蝶玫瑰招蜂
人間萬事如白邪與正往來

如朝蓬喜青山有幸長埋忠骨
白鉄無辜仍鑄奸凶一代女雄
成仁就義法笑從容氣貫虹千
秋業完英名領導嘉猷同大
同

茅盾



一九七九年八月

于北京

扉頁題字 茅 盾

目次

沁園春（茅盾）

1

杭州 3

西湖 11

西湖の名勝

湖浜公園 29

柳浪聞鶯 32

三潭印月 38

湖心亭 52

白堤 54

蘇堤春曉 58

断桥残雪 61

平湖秋月 64

放鶴亭 67

中山公園 69

浙江博物館 70

文瀾閣 73

西泠印社 77

西泠橋 90

保俶塔と宝石山 91

葛嶺と初陽台 94

岳墓・岳廟 101

棲霞洞の洞景 130

曲(麴)院風荷 133

杭州植物園 134

玉泉 138

双峰插雲 142

靈隱 156

飛來峰 167
韜光 172

花港觀魚 174

西湖賓館 179

杭州花園 182

龍井 186

吳山 193

玉皇山と鳳凰山 201

南屏の晚鐘と雷峰の夕照

虎跑 220

杭州動物園 222

煙霞三洞 266

六和塔 230

錢塘江と錢江大橋 232

九溪十八澗 238

五雲山と雲棲

240

梅家塢

245

超山

249

富春江

251

新安江

254

杭州をめぐるエピソード（杭州掌故）

歴史と言伝え（歴史与伝説）

杭州十城門

10

「西湖十景」の由来

19

三十六ヵ所に西湖

20

「上に天堂あり、下には蘇杭あり」

21

李泌の六井

31

西湖の灯会

36

西湖の競漕

42

杭州木版印刷

76

南宋の官窯 84

始皇帝の繫纜石 93

岳飛の埋葬地小考 109

四跪像考 110

精忠柏 111

施全、秦檜を刺す 112

翠微亭 171

杭州の金魚 178

西湖醋魚 181

「冷面寒鉄」周城隍 196

イスラム教鳳凰寺 197

白雲庵 212

詩文と人（藝文佳話）

日本の使者、西湖をうたう 35

山、青き山にあらず、楼、楼にあらず

袁枚、断橋で秀才を試す 65

林和靖と「梅妻鶴子」 66

丁敬、碑刻の模写に宝山に入る 83

郭沫若、賓館で筆をふるう 143

駱賓王、詩句をつなぐ 160

娘の機知、父の学を超える 161

蓋叫天の傑作、天を驚かす 185

笠翁、芥子園を巧築す 199

陳老蓮、長橋にて花を賞す 203

貫雲石、虎跑で詩を吟す 206

洪昉思、傲骨の一身 244

その人と書（碑林一葉）

三老諱字忌日碑 82

貫休画十六羅漢 99

岳飛手迹 108

蘇東坡の『表忠觀碑』 200

南宋の石経 267

李叔同手迹

225

五代の石刻星図

228

歴史上の人物

白居易と杭州

55

蘇東坡と西湖

59

葛洪

95

岳飛

107

于謙

121

張蒼水

123

秋瑾

125

戯曲物語

白蛇伝

62

紅梅記

97

梁山伯と祝英台

204

学 園

桃李天下に満つ（銭三強）

— 浙江大学の紹介

256

西湖畔の美術（莫樸）

— 浙江美术学院の今昔

259

画

棲霞嶺のふもと

春たけなわ

247

雨もまた奇し

248

銭塘江

248

詩

楹聯集錦（対聯集）

杭州の特産物

262

杭州絹織物

262

杭州錦織り

263

杭 菊

284

西湖の絹傘 265

杭 扇 266

龍井茶 268

西湖蔬菜 270

天竺はし 271

張小泉のハサミ 272

西湖藕粉（西湖の蓮根澱粉） 273

糖桂花（もくせいの花の砂糖づけ） 273

観光サービス案内 275

公共交通 275

賓館・ホテル・旅館 277

劇場・映画館 278

演劇・芸能 279

菜館（料理店） 280

料理・軽食 282

工芸品市場一瞥 265

沁園春

西子湖の辺、

保俶塔の尖、

暮靄迷濛。

雷峰に夕照を看るに、

斜暉去り尽き、

三潭の印月、

夜色方に濃し。

海より出ずる朝霞、

蘇堤の春曉、

疊なれる嶂と層する波、

漸く紅に染まる。

群芳の圃、

又紫藤蝶を引き、

玖瑰蜂を招く。

人間 万事 匆匆、

邪と正と 往來すること 転蓬の如し。

喜ばしきは青山幸あり、

長に忠骨を埋めん。

白鉄 辜なくして、

仍 奸凶を鑄る。

一代の女雄*、

仁を成して義に就き、

談笑 従容たるも 氣は虹を貫ぬく。

千秋の業、

党の英明なる指導ありて、

大同を贏ち得る。

茅

盾

一九七九年八月

北京市にて

・ * 女雄、秋瑾を指す。